

平成 26 年度第 3 回 日本救急医学会 女性医師参画推進特別委員会 議事録

日時 平成 26 年 10 月 16 日（木）10：00～12：00

場所 日本救急医学会事務所

出席：

委員長：畝本 恭子（日本医科大学多摩永山病院）

委員：岡田 昌彦（東京都立墨東病院）

木田 真紀（和歌山県立医科大学）

角 由佳（順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科）

本多ゆみえ（東海大学医学部）

担当理事：田中 裕（順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科）

オブザーバー：行岡 哲男（日本救急医学会 代表理事）

欠席：

委員：木村 昭夫（国立国際医療研究センター病院 救急科）

矢口 有乃（東京女子医科大学 救急医学）

議事内容

1. 第 42 回総会企画について

1) 特別企画（300 人前後収容） 2 時間枠について

- ・ 前回に提案された講演内容、設問の段取りを確認
- ・ 指導医セミナーのひとつとして頂いているので経験年数の長い先生方が参加される可能性もあるが、特別講演と 1 時間違いで別の指導医セミナーもあるので、参加者数は読みにくい
- ・ まず、最初に本企画の説明(委員会の紹介)
- ・ 引き続きアンサーパッドによる投票システムの練習と場づくりのため、冒頭スライドと、全般的な設問の投票を行う。
 - ① 男性か女性か
 - ② 設問① 参加者の施設は救急医として続けていける施設か？そうでなければ何が問題点か（男女とも）
 - ③ 設問② ロールモデルとする救急医は存在するか（男女とも）
- ・ その後、予定通り 5 名の講演を行う
- ・ 続いて女性医師とともに働くことに関する設問④、⑤の意識調査を行い、それぞれ

演者とフロアの方々から意見交換

- ・ 会員の女性比率が 1144 人/10679 人、評議員が 9 人/270 人（26 年 9 月現在）などのデータを呈示し、設問⑥として、「意思決定機関である評議員会の女性比率改善について」で参加者から投票していただく
- ・ 以上の意識調査の結果をもとに、委員会として学会に対する提言を呈示してセッションを閉じる

提言例：労働環境の整備、ロールモデル呈示、学会における意思決定に係る女性医師について、など。

2) 「‘男性も入れる’女性ラウンジ」について

- ・ タイムテーブルと担当者の確認
- ・ 来訪者へのアンケートの確認
- ・ 用意するキャリアパススライド：お二人分は現地で。あとはフラッシュメモリに保存してあるものを畝本が預かり、1 日目の朝に現地のパソコンに DL する。

2) 次回委員会開催について

第 42 回総会の企画の結果も参考に、今後の委員会活動計画を早急に立てる必要がある。学会終了の翌月に第 4 回委員会を開催する。

次回 平成 26 年 11 月 20 日 委員会開催予定

3) その他

- ・ 今後の活動について

専門医制度の変革により、救急医の確保に関しても様々な課題が明らかになってきている。特に、救急医のアイデンティティを可視化することは重要。ロールモデルなどの提示で、家庭をもつ女性医師も戦力として大切である。専門医研修プログラムや施設基準の中に、提言内容を盛り込んでいただくなどの働きかけも必要。

等の議論があった。